

## 七夕祈願祭

日時：令和元年7月7日（日）7時半～  
場所：津観音寺 津市大門 32-19  
願いごとを書く短冊を用意しています。  
七夕の夜、星に願いを！！



## 寺社ちょっといい話

### ■『天運江姫と伊勢路』

円光寺 坂倉賢芳住職  
伊勢の津七福神霊場会会長

藤原姓を基とする織田信長は永禄3年(1560)桶狭間の戦いで今川義元を敗ると、天下を意識し始め『天下布武』という言葉を使い始める(永禄10)。破竹の勢いで数々の戦で勝利を収め、『お湯殿の上の日記』(御所に仕える女官の日記)に信長の名が登場して来る。

永禄10年(1568)信長は足利義昭を擁して上洛を果すが、この頃から伊勢路・近江路に攻め入り、翌11年、鈴鹿の神戸氏に三男信孝、津の長野氏に弟信包(のぶかね)、近江の浅井長政に妹のお市を配し、その領土とする戦法を用いた。又翌年伊勢の国司北畠氏に次男信雄(のぶかつ)

を養子に入れることによって領土の拡大を果す。ところが浅井長政とお市の間には子宝に恵まれるが、長政は盟友の朝倉義景にくみし信長と対立する。信長は天正元年(1573)小谷城を攻め、城は落城し、長政は自刃する。しかし落城寸前にお市と三人の娘は逃れ、翌年信包の居城河芸の上野城に入り、六年間生活をする事になる。

この間お市と江姉妹は城代家老の分部光嘉の案内で、廊内の菩提寺円光寺にたびたび参詣し、亡き父長政の菩提を弔ったりした。

天正8年に安濃津城が完成すると、信包とお市とその子どもは新装なった城に移る。信包は先ず観音寺の復興に努め、その一環として窪田の六大院を境内に移して再興し、後に大宝院と称す。その間分部光嘉は信包の手足となってその復興に尽力し、寺領安堵状が発給されるよう働いた。天正10年には本能寺の変が起り、慶長5年(1600)には天下分目の関ヶ原合戦があり、分部光嘉は徳川方につき、津の籠城戦で押し寄せる西軍と必死に戦い、その功が認められ二万石の上野城主となる。



そんな目まぐるしい世の移ろいを間近にしながら、江姫は二代将軍徳川秀忠の正室となり、三代将軍家光を産み、また娘の和子(まさこ)は御水尾天皇の中宮となり、明正天皇(めいしょうてんのう・女帝)を生むという、天運の姫としてその名を歴史上に残すことになった。

この歴史ある円光寺に江姫の通り抜けた道を訪ねてみませんか。6月には沙羅双樹の白い花がお迎えし、11月には美しい紅葉がお待ちしています。



# 七福神のお話

起源は、平安時代に最澄が「大黒天」を日本に伝え、比叡山延暦寺に祀ったことが最初といわれています。その後、神様が徐々に増えていき、室町時代末頃に、「七難即滅、七福即生」（七難が滅すれば、七福が生じる）の説に基づき、幸せの七福神として信仰が生まれ、江戸時代中頃になり、正月には初詣としてお参りすることが庶民の間で流行り、定着したとされています。

いろいろな国籍（インド・中国・日本）や宗教（ヒンドゥー教・仏教・道教・神道）が合わさって、「七福神」となっています。昔は、異国の神様同士が友好的であり、一つの船に乗っていたのです。国同士や宗教間の争いもなく、昔を見習いたいものです。

七福神が宝船に乗っているのは、海の向こうの世界からやって来られるからだそうです。

## 『恵比須天・えびすてん』 初馬寺

### 商売繁盛



七福神の中で唯一、日本古来の神様で、日本神話のイザナミノミコト(女)とイザナギノミコト(男)の間に生まれたヒルコノミコトと言われ、商売繁盛・五穀豊穡をもたらす神様です。

## 『大黒天・だいこくてん』 四天王寺

### 五穀豊穡



インドのヒンドゥー教の神様シバの化身ですが、インドから中国に渡り、平安時代に天台宗を開いた「最澄」によって、日本に伝えられ、その後日本神話に登場する「大国主命」と一体化して誕生したの「大黒様＝大黒天」なのです。

## 『毘沙門天・びしゃもんてん』 津観音寺

### 必勝祈願



インドのヒンドゥー教の神様、クベーラ神です。もともとインドでは、財宝の神様でしたが、中国に渡り、武神となったそうです。そのため鎧をまとい、槍を持った勇ましい姿となっています。

武運の神として、上杉謙信ら戦国武将の信仰を集め、別名は、四天王最強

の一神で、北方を守る「多聞天」です。

## 『辨才天・べんざいてん』 円光寺

### 芸芸上達



七福神の中で唯一の女神で、琵琶を弾いている美しい姿となっています。インドのヒンドゥー教の神様で、インド古代神話の水神・サラスヴァティー神に由来し、音楽の女神として崇めら

れました。

## 『福祿寿・ふくろくじゅ』 結城神社

### 無病息災



中国の道教の神様で、鶴を伴い、長い頭、白い髭をたくわえて長い杖を持っています。

福(幸福)、禄(身分・財産)、寿(健康・長寿)の全てを備えた神様といわれ、また南極星の化身と言われ、一説によると、寿老人と同一視されてもいます。

## 『寿老神・じゅろうじん』 高山神社

### 延命長寿



中国の道教の神様で、鹿を伴い、頭に頭巾をかぶり、白い髭をたくわえて長い杖を持っています。南極星の化身と言われ、健康・長寿の神様です。

「福祿寿」は、鶴を伴い、長い頭の神様。「寿老人」は、鹿を伴い、帽子を被っている神様。

## 『布袋尊・ほていそん』 安楽寺

### 子孫繁栄



中国の仏教から来ており、唐の時代に実在した中国の僧「契此・かいし」がモデルになっていると言われています。

この僧は大きな袋（堪忍袋ともいわれています）を背負い、いつも人々からの施しを求めて、各地を旅して回っていたそうです。その際、施しを受けたお礼として、その人の吉兆の占いをしたところ、すべて当たったので崇められたとのこと。

※以上、おはなしには、諸説あります。

## 日本最古の「京都・都七福神」まいり

令和元年5月28日、七福神霊場会と事務局・世話人は、他の七福神を視察し、今後の参考にするため、「都七福神」へ出かけました。3, 4日続いた真夏日に、ほっと一息の雨模様でした。弁天様のおられる六波羅蜜寺、ゑびす神社、布袋尊の黄檗宗本山・萬福寺では普茶料理をいただき、吉野心源僧侶に開創の隠元和尚のお話や『禅宗の無駄を排する心』『命を無駄なくいただく心』などの法話をお聞きしました。残りの4霊場へは10月に出かけます。



六波羅蜜寺



ゑびす神社



おうぼくしゅう  
黄檗宗本山・萬福寺

### ご案内

#### 満願成就された方への記念の品

満願された寺社様の七福神の水晶玉が入ったストラップを進呈いたします。7つ集めてみませんか？作成は霊場会の和尚さん！！

白 色：円光寺 うす紫：高山神社 こい紫：安楽寺

もも色：結城神社 だいだい色：初馬寺 うす黄色：津観音寺

明るい緑：四天王寺



## 布袋尊霊場・安楽寺（一志町波瀬）和田正道住職お勧めのお店

TEL 059-294-7100

津市一志町波瀬は人口約 1600 人が暮らす山あいの、のどかな所です。

「カフェ古 POS（コ-pos）」はこの春から国登録の有形文化財に指定されたお店です。  
旧一志波瀬郵便局舎を改装して 2017 年 10 月にオープンしました。

マスターの藤岡信貴さんは、昭和 6 年当時局長だった曾祖父がに建てた郵便局を改装して、昭和の趣を求めて足を運んで欲しいと毎日美味しいコーヒーをたてています。

伊勢の津七福神巡拝の途中には是非一休みされてはどうでしょうか。（10：00～16：00 月・日休み）



コ-pos 郵便局舎を改装



昭和の趣が

## 伊勢の津七福神 友の会ご案内

伊勢の津七福神が津市に開創して 6 年半が経ちました。

巡拝の方も 3,400 名（5 月末）を越えました。

今 200 名の友の会会員の皆様のご協力のもと、この先も歩みを進めて行きたいと思っています。

是非ともこの活動に御賛同くださり、巡拝・感謝の心を育て、町おこしの夢を見てください。

会員の方には年 3 回、友の会便りが届きます。特典もございます。

会費 : 1,000 円/年間 金融機関 : 郵便局

郵便振替口座 : 00820-8-123136 口座名義 : 伊勢の津七福神友の会

《伊勢の津七福神友の会事務局》

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内

電話 : 059-225-8558

URL : <http://isenotsu7fukujin>



伊勢の津七福神友の会会員証



様

津市丸之内 27-16 高山神社内

伊勢の津七福神友の会

30 有効期限 平成 31 年 1 月 31 日

発行：伊勢の津七福神友の会事務局

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内

編集後記：ご意見、原稿お寄せ下さい。

円光寺の沙羅双樹の花景色、是非！！

池上 kanon@nifty.com